

意見広告

真実の上に友好がある、佐渡金山朝鮮人労働は強制連行ではない!

私たち日本で研究活動をしている学者有志は6年前に、慰安婦問題や戦時労働問題などで歴史的事実に反する誹謗中傷が国際社会に拡散し、我が国の先人らの名誉を著しく傷つけている状況を憂慮して、歴史認識問題研究会を結成し、一次史料にもとづく研究を深め、その成果を発信してきました。

その中で、韓国でも「慰安婦は性奴隷ではない」「朝鮮人戦時労働は強制連行ではない」という研究を行い、それを発信している尊敬すべき学者、ジャーナリストたちと出会いました。

3月には東京で「佐渡金山における朝鮮人戦時労働の実態」日韓学術セミナーをリモートで開催し、日韓でベストセラーになった『反日種族主義』共著者・李宇衍（イ・ウヨン）博士らから貴重な研究成果を聞きました。

内務省の公式統計によると、1939年から1945年の間に、朝鮮から内地に約240万人の朝鮮人が渡航しました。そのうちの25%、約60万人が国家総動員法に基づく戦時労働動員で、残りの75%、約180万人が出稼ぎを目的にした自発的個別渡航でした（内務省統計^{※1}）。

個別渡航も朝鮮での居住地の警察の渡航証明書が必要でした。それを持たずに密航などで不正渡航する者も多く、当時の当局は内地で約2万人の不正渡航朝鮮人を捕まえて朝鮮に送り返していました^{※2}。

佐渡金山における朝鮮人戦時労働もこのような大枠の中で行われた合法的なもので、決して強制連行、奴隷労働などではありません。待遇も内地人労働者と同じでした^{※3}。さまざまな一次史料がそれを証明しています。

朝鮮人を暴力的に連行し奴隷労働をさせていたという「強制連行」説は日本の朝鮮統治が終わって20年が過ぎた1960年代半ばに、日韓国交正常化に反対する運動の中で、北朝鮮を支持する在日朝鮮人学者らが唱えた事実とは異なる学説です^{※4}。それがまず日本で広がり、韓国にも伝わっていきました。

私たちは韓国の学者らと協力してこのような歴史的事実を国際社会に発信していきます。真実の上に日韓友好があります。

※1 1939年から42年は内務省警保局「社会運動の状況」各年、43年から45年は内務省警保局資料、内地への朝鮮人戦時労働動員は募集（42年1月）、官給旅（44年8月）、徴用（45年8月）合計60万人、その枠外の自発的個別渡航はその3倍の180万人だった。

※2 西岡力編「朝鮮人戦時労働の実態（産業遺産国民会議）28頁所収の内務省警保局統計

※3 平井栄編「佐渡鉱山史頁二、佐渡鉱業所半島労働管理」付二

※4 「朝鮮人戦時労働の実態」、西岡力「日韓歴史認識問題の40年」書思社第4章

日韓学術講演会 佐渡金山と朝鮮人労働者

講師



西岡 力
歴史認識問題研究会会長
麗澤大学客員教授



李宇衍
(イ・ウヨン)
洛星台研究所研究委員
「反日種族主義」共著者

東京会場 7月9日(土) 13:30~16:00 (開場13:00)

都市センターホテル オリオン
東京都千代田区平河町2丁目4-1

新潟会場 7月10日(日) 13:30~16:00 (開場13:00)

朱鷺メッセ 中会議室302
新潟県新潟市中央区万代島6-1

※事前申込不要、資料代千円(各会場共通)
◎お問い合わせは歴史認識問題研究会事務局まで

歴史認識問題研究会

【事務局】〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2丁目1番1号
TEL.04-7173-3197 [メールアドレス] info@harc.tokyo

■会長／西岡力 ■副会長／高橋史朗 江崎道朗 ジェイソン・モーガン ■顧問／伊藤隆 櫻井よしこ 田中英道 渡辺利夫
■役員／伊藤哲夫 勝岡寛次 島田洋一 長谷亮介

活動への
ご支援を
よろしく
お願い
いたします

郵便局備え付けの「払込取扱票」を使って入金できます。

- ゆうちょ銀行／口座記号・番号:00210-9-86388
- 加入者名／歴史認識問題研究会

尚、ゆうちょ銀行の口座をお持ちの方、他銀行からの振込みを希望される方は、本会のHPをご覧ください。